

の元になっていきますし、その時のご本家即五色人の統制役がスメラミコト家の天職役であられましたし、そのズートご子孫が神武その他の皇統なのです。その人類教化の中心(当時は人間は何もわからないので、紙から墨から筆からという式に人類教化時代が永く続いています)の標識が日の丸の旗標し発生です。

イスラエルの東門、あかずの扉の裏に大きな菊のご紋章がでてきたり、ツタンカーメンの剣や靴に16の菊の紋章がついたり、ご即位の五色のみ旗の配置の五色やご即位の時の錦のみ旗の五色のアユの名残りとなったり、大神社のみこのふる鈴やサカキに五色の色旗が今なおついたり、釈迦やイエスが歴史上は太陽族、日種などと研究発表がでる因であり、モウゼ四色の旗因であり、この五色の面の写真なのです。

この五色人の面の写真は、私が超古代史上、ここには何か五色人の足跡の証拠が残っているとネラッタ一つのある神社に、今日立派にご神体として祀ってあったもので(もちろん虫が喰いボロボロになりかけ、色はあせている)、初めて世にご紹介する一つですが、大変面白く感じたのは、黒人の国人面、赤人(メソポタミアから西へ多く行った)系は赤人の面で、かつその地域独特の人種面相となっており、しかも印度は印度特有の木、ユダヤ系はユダヤかエジプトの木という式で、面と木は合致している(考古学

者検定)。恐らく絵具も分析してみたら各地独特のものであろうと思われるが、これこそ其の国宝であり、人類宝といふべきで、今の指定国宝や文化財は問題にならない重大なものが沢山全国にコロがったままです。

あまつさえいづれの国のいづれの宗派の仕業か知らないが、全国各地でこれらの証拠煙滅運動が、いまだに跡をたないことを世に警告せざるを得ず、日本の文化財保護委員会や世界政治家の重大関心を喚起せざるにはおれないものです。その意味でこの写真を未来の証拠の一つとして世に贈ります。紙数もないのでこのへんで今回は筆をとめます。

今や人類はあらゆる面で想念をUターンせぬ限り、神の怒りによる一大天譴をオールド地球にわたって受ける外ない年が近迫しているだけに、霊的に、人道的に重大と考え、またそれ等への人類開眼誘導こそ日本歴史家や考古学、人類学者や三大宗教家の新たにして急を要する重大責任であり、これなくして考古学者博士の名は、人類と日本人に一応返納すべきではなからうかとさえ考えさせられ、またこの意味で、真日本発見に志向され初めている米英独その他日本全国各地の新興考古学者、人類学者の方々の勃興に重大な敬意を表している一人でもあります。いまわしい事のみの世に、一方「新しい日本」「新しい世界」への躍進と、新时期が同時に始まっていますことをせめてもの人類へ、日本人への祝福としたいと思います。

ことばの辞典

天津罪・国津罪

(一) ツの言霊は詰めるのツ、積み重ねるのツ、提ツツミのツ。反対は平たくする働き、水平になる津。布をヒロゲると→包めるフロシキとなる。ツミとは包む、積む。何を包み積むのか。

(二) 元来人間は、神から分けみ魂と霊質と引き裂いて頂いて、人間のデッサン霊成型(像)ができ、それを操れる魂との二元が一体となったもので、当初、清明正直そのもの、いいかえると、神の子そのものでした。

それが、神の仕組みの方便で、物

(人) 界の代官、支配人とさせられ物質界の開発を担任したが、進歩の為神霊界に自由が許され、したがって、それが人霊界に移写したのが自由競争の世です。ところが、ついに物欲に因われるようになり、人間愛、利他愛を考へている余裕が次第になくなって、自己愛旺盛時代と変遷して我利にすらな

↓ヨコシマ事や逆事

✓人を苦しませ、殺し

不幸に陥入れ、悩ました事

即

釈迦の言でいえば業が積み重ねられた

のです。清明な魂や霊細胞は業によって包まれ、そのまた包みを幾千年と積み重ねたのです。真我の我の聖霊体を包み積んだ、言い換えると、神様が新調して下さったキレイな人間という最高芸術品、即ち真白な絹の原反にインキや泥水や墨水をブツかけ、汚した。そうすると清明な霊細胞には汚濁が含まれるばかりでなく、中にしみ込んで濁り玉となった。おまけに五官五感の働きと密接な心も汚れた、雲がかけられて、その汚濁のしみ込んだ霊細胞を又汚れた幽細胞でつつむ、その上に逆法の医学が発育してから、少くも五千年肉体細胞の清浄化が起きると感謝どころか、病と名づけて気を病んで、あらゆる抑制、固めの対症療法のみとなった。近世は排毒作用を病氣とオドされて、どんどん抑え固める薬毒、その他の公害さえ注入、飲食するようになり、肉細胞の猛毒蓄積五千年に及んでいますし、幽細胞、霊細胞を毒性物質で包み積んだ。したがって、肉細胞の

て、二三述べましょう。

汚濁とその硬化は、清明な靈細胞に神の光の波動や生命の光波が通りにくくしてしまった。そこで、光なき肉身と魂靈の人間と化し、天寿全うすら出来ず、人間神の子としての偉大な宇宙知もはいりなくくくなり、本人の一切の気が枯れる、神に近い靈智、靈力さえ無となるので氣枯れ、穢れというようになり、光は濁って業と化したのです。そういう結果を招来するのを古代、包み、氣枯れといったので、今日は罪穢れというようになったのを罪というわけです。即ち大償い(病貧災に苦しむ)なくしては人間明かな靈となれない世と化したのが現代です。

天津罪の中のなんとといっても人類共通の重大な問題で容易な事では許されない罪の大きなものは

① 天祖、人祖である主の神と日照大神を天の岩戸閉めにし奉ったままであること。しかもその神の出現期が来てしまったこと、その神々への叛逆をおかしたままであることに気づいていない。

② 人間に計画とそれを遂行せんとする願いがあると同じように、人間を有目的に創造された神にも経綸があり、その経綸即ち神策成就の熱願を持つておられること。

③ 神が万生を弥栄えさす仕組みの置き手、即ち、人が乗って行かねばならぬ法・神理(真理と違う)を蔽として制定しておられたのに、その惟神の靈智即ち神の歩まれる靈智による路を歩まなくなつて、全然勝手な人知、才知による道によって歩いて来た。一時

の間、人類進化の為大目で許されて来たが、それだけに早く気付き魂改めぬ限り、神の大ミソギを受ける外ないほ

④ 神が万生を弥栄えさす仕組みの置き手、即ち、人が乗って行かねばならぬ法・神理(真理と違う)を蔽として制定しておられたのに、その惟神の靈智即ち神の歩まれる靈智による路を歩まなくなつて、全然勝手な人知、才知による道によって歩いて来た。一時

の間、人類進化の為大目で許されて来たが、それだけに早く気付き魂改めぬ限り、神の大ミソギを受ける外ないほ

⑤ 神が万生を弥栄えさす仕組みの置き手、即ち、人が乗って行かねばならぬ法・神理(真理と違う)を蔽として制定しておられたのに、その惟神の靈智即ち神の歩まれる靈智による路を歩まなくなつて、全然勝手な人知、才知による道によって歩いて来た。一時

の間、人類進化の為大目で許されて来たが、それだけに早く気付き魂改めぬ限り、神の大ミソギを受ける外ないほ

⑥ 神が万生を弥栄えさす仕組みの置き手、即ち、人が乗って行かねばならぬ法・神理(真理と違う)を蔽として制定しておられたのに、その惟神の靈智即ち神の歩まれる靈智による路を歩まなくなつて、全然勝手な人知、才知による道によって歩いて来た。一時

の間、人類進化の為大目で許されて来たが、それだけに早く気付き魂改めぬ限り、神の大ミソギを受ける外ないほ

んといつても

(イ) 神の仕組みの置き手(掟)、神理への叛逆即ち逆法の囚人となつた事。

せ一杯の人間界にはなれないようにしてしまっている罪。

例えば、人間天寿全うの法、無病化、脱貧の術法、清浄の発願クリーニングしつつ、自然と万生の一体化による万象、即ち弥栄えの妙法には人知で雲をかけ、人生観も肉体観も医学も一切逆法の道を歩ませ、歩んで来た為、不幸者一杯の世とした神への親不幸という神の子として積み重ねの激化。身

(ウ) これ等の罪は天津罪の如く、直接的に神界に悪影響はないが、間接的には、神靈界に曇かけける事。階下でクサヤのニホヒや焼きもののケムリが二階に上がってけると同じ、何れは神靈界に叢雲的影響を及ぼし、したがって神は人間界、物界の大ミソギハラヒをする外ないように神界は追い込まれて行く因を積み込んで行く罪。

の中には、葉毒、肥料毒、放射能毒、化学毒を万生に吸収せしめて、宇宙地球の毒化により、遂に人間は万象のクリーニング現象を激化せしめ、もちろん人間を含めて万象氣枯れさせている罪。要は天の理法の無視に起因する現

以上述べた様な関係を積み積むと申しまして、天津罪となり、国津罪となつて積み重ねられて行く。

界汚濁化攪乱の罪。

したがって、人間の理論や合理主義では、次第次第に人類界には、逆にお

(ロ) 神の子人間同志の喰い付き合う社会化によるあらゆる怨み、憎しみ等の万靈の靈活動を激化して、神の子人間界は地上天国どころでない。償い現象無くしては、明かな靈の人類即ち幸

けのわからぬ不幸現象や逐には戦争とか、天候異常の風水害、更には一大天変地変、火の洗礼期に、人間の作為によって突入して行く外ないようになつて行くのが、天津の罪、国津の罪で、万教の、特に五大宗教教祖が予告し、

警告の行として喧々伝えられて来たものの本体なのです。これ等の罪は心行、体行も大事だが、神の真の光、即ち神の火の精靈光により直接的に魂靈浄化の妙法として、火の洗礼期、人類大峠期に、人類に魁て許される天の時

お互い、いよいよその天恵に感謝報恩の義に生き、正法の宣布に邁進すること、より一層に天津罪、国津罪のインスタンツト解消の妙法となり、明かな人造り、人生造り、国造りとなる訳です。

マコトバイブルの「真の光」によるパプテスマ、皆様の修験しておられる天照日大神(天の父)の大元靈から発せられる靈光、真光の業であり、人類の積み込み来し結果、神裁きの一法、罪重ねし人類自壊浄化法、靈障のインスタンツト解消法、「真光の業と正法の人

生行」であります。

お互い、いよいよその天恵に感謝報恩の義に生き、正法の宣布に邁進すること、より一層に天津罪、国津罪のインスタンツト解消の妙法となり、明かな人造り、人生造り、国造りとなる訳です。

お互い、いよいよその天恵に感謝報恩の義に生き、正法の宣布に邁進すること、より一層に天津罪、国津罪のインスタンツト解消の妙法となり、明かな人造り、人生造り、国造りとなる訳です。

(聖玉師述・文真広報部)

(聖玉師述・文真広報部)

(聖玉師述・文真広報部)

(聖玉師述・文真広報部)

(聖玉師述・文真広報部)

(聖玉師述・文真広報部)

(聖玉師述・文真広報部)

(聖玉師述・文真広報部)

(聖玉師述・文真広報部)

(聖玉師述・文真広報部)